NPO クラブでの取り組み　～子どもを核とした地域づくり～

多世代交流拠点「おおなみこなみ」

小学生向けプログラム「千葉工大生と学んで、遊ぼう！」２年目の取り組み

核家族化が進み、家庭や地域の中では、小学生が大学生の年代の人と一緒になる機会はほとんどありません。大学生は手加減せず、夢中になって遊んでくれます。大学生の指導でノコギリを使い作った竹の器で食べた「流しそうめん」。子どもたちにも大学生にも貴重な体験になりました。地域の人たちも昼食作りなどに、ボランティアで関わっています。

四街道市みんなで地域づくりセンター

「夏休み小学生ボランティア体験」

地域の子どもたちだけでなく、保護者にも市民活動の意義を知ってもらう機会に。

「子ども支援団体交流会」

地域に育つ子どもの環境を知り、必要な支援を考えようをテーマに開催。18 団体と民生委員が参加。

とみさと市民活動サポートセンター

「夏休み小学生ボランティア体験」のほか、子育て中のママたちがものづくりを通して交流する託児付きの**「ちくちくカフェ」**が好評。パパとお子さん向けの**「とんとんカフェ」**も新たにスタートし、広がりをみせています。

お知らせ

＊詳細については　お問い合わせください＊

ちばユニバーサル農業フェスタ 2017 視察会と出展説明・交流会

日時：9 月 12 日(火)

12 月 16 日開催の「ちばユニバーサル農業フェスタ」に先立って、養鶏や野菜づくりに取り組む福祉施設を訪問し、参加者同士で情報交換・交流を行います。

【ユニバーサル農業視察会】参加費　1,000 円
10:00～12:00　NPO 法人みのり福祉会（四街道市）現地集合
【出展説明・交流会】参加費　500 円
13:30～15:30　四街道市文化センター201・202 会議室
◆お問合せ・申込み：実行委員会事務局
NPO 法人 地域創造ネットワークちば　TEL：043-270-5601
FAX：043-270-5602　E-mail：souzounet@coast.ocn.ne.jp

景観まちづくりフォーラムちば 2017

海辺の復興景観まちづくり
～伝えよう 子どもたちの笑顔のために！～

日時：10 月 22 日(日)

場所 ： 旭市飯岡（飯岡駅より送迎バスあり）
[まち歩き]
10:00～12:00　刑部岬展望館がスタート
[フォーラム]事例報告、パネルディスカッション
13:00～16:20
いいおかユートピアセンターにて
◆お問合せ・申込み
NPO クラブ
（下記連絡先まで）

≪編集・発行≫ **特定非営利活動法人（認定 NPO 法人）ちば市民活動・市民事業サポートクラブ（ＮＰＯクラブ）**

〒261-0011　千葉県千葉市美浜区真砂 5-21-12　TEL 043-303-1688　FAX 043-303-1689
Mail：npo-club@par.odn.ne.jp　URL：http://npoclub.com　ブログ:http://blog.canpan.info/npo-club1
http://www.facebook.com/NPOclub　https://twitter.com/npoclub
・運営会員 27 名　賛同会員 113 名　発行 1,000 部　会員・県内市民活動支援センター・自治体等に送付しています。

特定非営利活動法人（認定 NPO 法人）　ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

ニュースレター つぎの一歩 くん

Vol.60
2017. 8

地域力、福祉力、市民力　チカラをあつめる、つなぐ、広げる、高める～市民が主体の地域づくりを！

第 17 回定期総会 ＆地域通貨『まーぶ』学習会を開催！

6 月 10 日（土）に千葉市生涯学習センターで、定期総会と学習会を開催しました。認定ＮＰＯ法人になって初めての総会です。その後の学習会も含め、子どもたちの未来、地域の未来を考える時間になりました。

2017 年度のNPOクラブの活動

今年度のポイント

・ＮＰＯの社会的な役割を再確認し、東京オリンピック開催以降の地域づくりにつながるボランティアの育成を目指します。
・東日本大震災により千葉県に避難して暮らす人たちを継続して支援します。
・多世代交流拠点「おおなみこなみ」の活動を継続する中で「地域の居場所」としてのあり方を考えます。

主な活動

① 四街道市みんなで地域づくりコーディネーター業務
② 福島県避難者支援、相談事業
③ 多世代交流拠点「おおなみこなみ」運営事業
④ 富里市まちづくりコーディネーター育成業務
⑤ 千葉県景観まちづくりフォーラム開催事業
⑥ 「SAVE JAPAN プロジェクト」「一宮ウミガメを見守る会」と連携
⑦ 千葉県「市民活動団体マネジメント事業」受託事業

組織の運営

・役員は理事 13 名、監事 2 名（理事会は年 5 回開催）
・スタッフ 7 名、ボランティアスタッフ 7 名
四街道市みんなで地域づくりセンタースタッフ 5 名

定款を変更しました

・特定非営利活動の種類に、「まちづくりの推進をはかる活動」を追加しました。
・事業内容に、「被災地・被災者支援事業」と「まちづくり・地域づくり事業」を加えました。
・会員の種類を運営会員と賛同会員にしました。
・貸借対照表の公告は、団体ホームページで行います。

「まーぶ」が育む 子どもたちの未来

地域通貨「まーぶ」とは
子どもの未来のため、地域ぐるみで作った仕組み

★子どもたちが生まれた環境に左右されないように
★子どもたち一人ひとりが、社会の中で主体的に生きる力を獲得していくために
★子どもたちがまちを元気にしていくように

子どもたちの遊びと学びと生活を豊かにし、未来を育むことを目的にしています。2014 年からは、大人も使えるようになり、大阪府箕面市内で流通。子どもが稼げることが特徴で、人と人とのコミュニケーションを促し、地域が元気になっていくような仕組みのもとに、幅広く利用されています。

「まーぶ」の使い方・もらい方

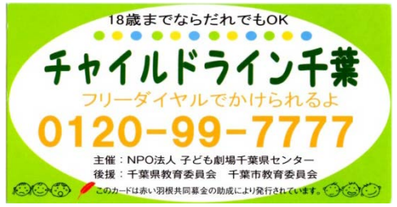
使い方	・店舗での買い物や行事の参加費として ・親切やボランティア活動のお礼として ・誰かに何かをしてもらった時のお礼として ・ボランティア活動の謝礼として
もらい方	・円と交換して ・ボランティア活動の対価として ・子どもが「誰かのためになること」「未来の自分のためになること」をして

❖松村幸裕子さん　地域通貨「まーぶ」講演会資料より

＜地域通貨「まーぶ」に関するお問合せ・連絡先＞
NPO 法人　暮らしづくりネットワーク北芝
地域通貨「まーぶ」事務局（担当：松村さん）
大阪府箕面市萱野 2-11-4　TEL 072-720-6630
✉info@ma-bu.org　URL:http://www.ma-bu.org/

千葉県内の取組み～子どもを核とした地域づくり

地域通貨「まーぶ」は、子どもの「○○したい！」気持ちを自分の力で実現できるよう、大人たちが地域ぐるみで関わり、作り上げた仕組みです。千葉県では子どもを取り巻く環境はどのような状況で、どんな問題があるのでしょうか。子どもたちの未来のために地域としてできること、必要なことを、千葉県内の事例から考えてみたいと思います。



18 才までの子ども専用電話相談「チャイルドライン千葉」。「ママパラインちば」と共に、ボランタリーで実施している特定非営利活動法人　子ども劇場千葉県センターの担当者にお話を伺いました。

「チャイルドライン千葉」

日本で「いじめや自殺」が問題になってきた 1999 年に「子どもの話を聴いてみようよ」という思いでスタート。1986 年、既にイギリスで開始。電話の「受け手」の育成に注力し、**「指導・指示しない＝傾聴するだけ」の電話対応**で、月～土曜日 16～21 時まで受付(全国で は 70 団体が受付中)。固定電話から携帯電話、さらにフリーダイヤルになり件数がぐっと増加。2016 年は、総着信数 7498 件、会話成立 2929 件。一言、いたずら、無言、もしもしのみで切れる場合も多いが、大人を試すテストコールとして大切にしている。

相談から見える「気を遣う子どもたち」

相談内容の傾向は、開設当時から基本的に変わらず、人間関係についての悩みが多い。子どもにとっての一番の居場所は、学校と家庭で、その中での人との付き合い方の相談が多い。子どもの話を聴くなかで、「一人親なのではないだろうか？」と感じることも多くなった。**疲れているお母さん、忙しそうな先生に心配や迷惑をかけたくないと、子どもたちはとても気を遣っている。**周りと上手くやっていきたい、みんなと仲良くしていたいと思っている。痴漢や写メを撮られたとか、SNS 上でのトラブルなど、社会の状況を反映する話も最近は多くなっている。

「ママパラインちば」

2002 年ママラインでスタートし、現在は、お父さん、お祖母さんからも電話が入る。千葉では毎週金曜日の 10～16 時に匿名で受付(全国では 8 団体が受付中)。千葉県内各自治体（子育て支援課・教育委員会など）を訪問して、案内カードを配布している。

お母さんからの電話が 1 番多く、子どもに関わる相談と、自分自身の相談が半々。友達がいるようでいない、ママ友との距離感で悩み、一人で頑張るお母さんが多い。頑張り過ぎて子どもに当たる。子育てに自信がなく、これでいいのか？と自分を責める。特に最近は多すぎる情報のために悩んだり、他人からどう見られるか心配で決められないなどが見受けられる。**愚痴でも何でも話してほしい、聴いてもらうことで落ち着き、自分の気持ちを整理することができる。子育てが前向きに楽しめるよう応援していきたい。**

心の居場所の大切さ

親以外の多様な大人が子どもに関心を持って欲しい。見守る目、話を聴く耳、声をかけないまでも「知っている」（無関心ではない）関係であって欲しい。選べるよう様々な居場所があり、信じられる大人に出会って欲しい。地域コミュニティは、うるさい、ややこしいと敬遠されてきたが、ママたちにとっても地域での多世代交流の場があればと思う。「チャイルドライン千葉」も「ママパラインちば」も、気持ちを聴く、傾聴の電話です。**相談者の名前も聞かない一番身近な話し相手として、みんなの心の居場所でありたい。**

特定非営利活動法人　子ども劇場千葉県センター
千葉市中央区新千葉 2-17-6 サンコート新千葉 102 号　TEL 043-301-7262　Mail：kidchiba@lily.ocn. ne.jp
URL：http://chiba.gekijou.org/

子どもの居場所づくり「てらこや」活動

子ども、若者、大人の三世代が共に育ちあえる地域の場として 2003 年に始まった「てらこや」活動は、全国 45 か所に「全国てらこやネットワーク」として広がっています。千葉市で 2011 年より運営している「てらこやちば」の立ち上げメンバーの一人、事務局の太田幸二さんと学生理事・代表の飯田拓郎さんにお話を伺いました。

「てらこやちば」の活動は

毎月の活動は下図の 3 つ。ほかにイベントとして、子どもに人気の高いテレビ番組の世界を忠実に再現した鬼ごっこ「逃走なう」や夏合宿、日帰り旅行、近隣商店街との交流「中うぉーくらりー」などを行っている。

運営は、25 名のコアメンバーと 80 名の登録メンバーで、千葉、淑徳、植草学園大学の大学生主導で行っている。イベント時には他県のてらこやメンバーとの人材交流があり、情報交換の場ともなっている。子どもは、登録制で 200 名。子どもの安全のため、保護者とは密に連絡を取り、子どもへの対応に関しては、メンバー同士で共有できるよう活動前後のミーティングを念入りに行う。活動場所や畑などは支援者の協力、備品の協賛をいただきながら、運営は参加費で賄っている。

てらこやハウス
第 2,4 土曜日 10～16 時
主に小学生対象。室内外で遊びや勉強を自由に楽しむ

放課後てらハ
毎週金曜日 16 時半～19 時
中学、高校生対象。室内で勉強や会話などを楽しむ

てらちばたけ
第 4 日曜日 9～16 時
対象年齢を問わず、200 坪の畑で農作業を行い自然と触れあう

活動にこめられた思い～自分らしさを諦めないで！

子どもには様々な体験をして世界を広げてほしいと考え、イベントでは非日常的な体験を心がけている。夏合宿では、山登り、10km 歩く、キャンプ場に泊まるなど、大変さや不便さを乗り越えることを課題として、楽しさだけでなく、乗り越えた感動や達成感を子どもと共有するようにしている。「逃走なう」では子ども 150 人、学生 350 人という規模で、本気で再現し、本気で遊ぶ。**自分らしさを実現できる環境を作ることで、その子どもが自立していけるように促していきたい。**

子どもの第三の居場所に、そして「みんなの居場所」に

家庭では怒られないように、学校では周りの目を気にして、「無難（フツー）」が一番だと子どもたちが、夢や目標を持ちづらくなっていると感じる。家庭、学校に続く第三の居場所として、自由に安心して過ごせる場が地域に必要。**友達のようでもあり、お姉さん・お兄さんでもあるという、ナナメの関係を学生・若者が関わることで築いていきたい。**現代の子どもの環境では、身近な目標となる存在が少なく、スターやスポーツ選手のような遠い存在に目が行きがち。あんなお兄さんになりたい！大学に行きたい！など身近な目標の手がかりになれたら。また、学生自身にも社会的な経験を積む貴重な場となっており、世代を超えた地域でのつながりのなかで、共に成長していける「みんなの居場所」でありたい。

てらこやちば
千葉市中央区中央 2-6-3　FC ビル 8 階
URL：http://terakoyachiba.web.fc2.com/
Mail: info.terakoyachiba@gmail.com